

国語科「読むこと」において、 自分の言葉で考えを表現できる児童の育成

— 語彙指導の改善と言葉に着目して振り返る「一語一会」の設定を通して —

令和2年度 前橋長期研修研究員 原田 秀美

研究の概要

主題設定の理由

小学校学習指導要領（平成29年告示）解説国語編

- ・「言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を育成する」とし、学習内容の改善・充実として語彙指導が挙げられた。

令和2年度前橋市「各教科等指導の努力点（国語科）」

- ・「互いの考えを言葉で伝え合い、考えを広げ深める授業」を充実させる必要があるとし、児童の言葉によって、考えを広げ深めていくことが重要であるとされる。

児童の実態

- ・自分の言葉で思いや考えを表現するための語彙が十分ではない。
- ・「読むこと」において、叙述を根拠にして豊かに想像したり、自分の考えを伝え合ったりすることができる児童が少ない。

教師の指導の実態

- ・児童の語彙を豊かにするために、言葉に着目させたり吟味させたりする語彙指導ができていない。
- ・「読むこと」における「精査・解釈」の学習過程では、児童が叙述を基にして考えを広げ深めるための発問の工夫や、児童一人一人が自分の考えを表現する場が設定できていない。

目指す児童の姿

言葉に関心をもち、叙述を基に想像したことや考えたことを自分の言葉で表現できる児童

研究のねらい

小学校国語科「読むこと」において、自分の言葉で考えを表現できる児童を育成するために、語彙指導の改善と言葉に着目して振り返る「一語一会」の設定が有効であることを、授業実践を通して明らかにする。

研究の見通し

手立て1

【語彙指導の改善】

「読むこと」の学習において、児童が語句の量を増やしたり自分の表現で使ったりするために、「指導の重点とする語句」を可視化したり、「叙述を基に読み取る上で大切な語句」（以下「読み取る上で大切な語句」）を精選したりして、それらの語句を意図的に取り上げる。

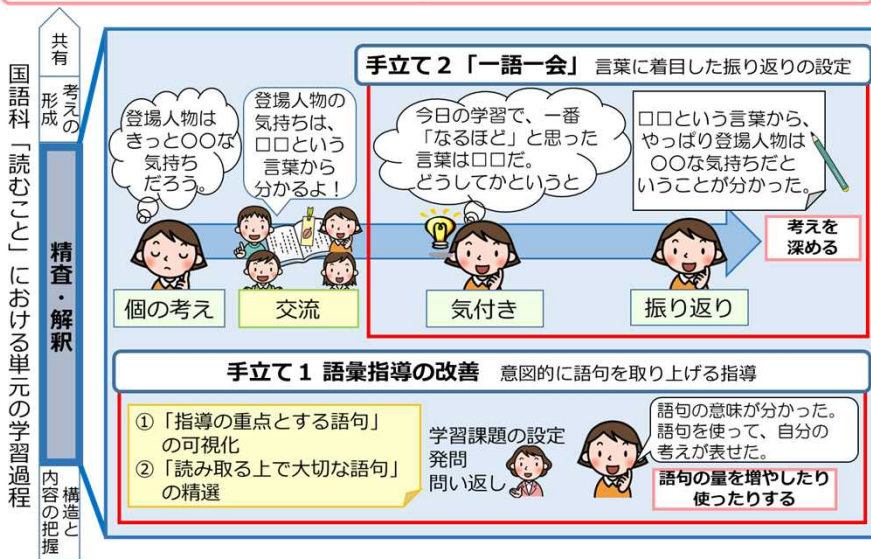
手立て2

【言葉に着目して振り返る「一語一会」の設定】

「読むこと」の学習において、交流を通して気付いたことを生かし、自分の考えを深める場として、言葉に着目して振り返る「一語一会」を設定する。

研究構想図

【目指す児童の姿】 言葉に関心をもち、叙述を基に想像したことや考えたことを自分の言葉で表現できる児童



手立て2 言葉に着目して振り返る「一語一会」の設定

本実践では、第3時から第7時（精査・解釈）の終末に、言葉に着目して振り返る「一語一会」を設定しました。



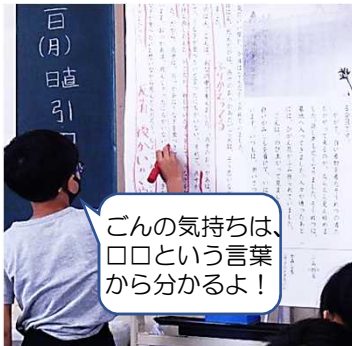
個で考える



ごんはきっと〇〇な気持ちだろう。



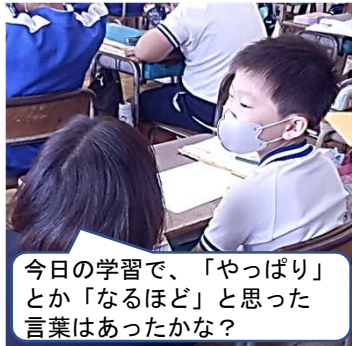
交流



ごんの気持ちは、□□という言葉から分かるよ！



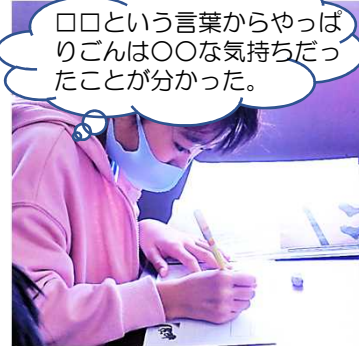
気付き



今日の学習で、「やっぱり」とか「なるほど」と思った言葉はあったかな？



振り返り



□□という言葉からやっぱりごんは〇〇な気持ちだったことが分かった。

「一語一会」とは

言葉との出会いを大切に、自分の読みが深まったり、新しく気付いたりしたことを振り返ります。



今日の学習で「やっぱり」「たしかに」「へえー」「なるほど」と思った言葉の一つを選びましょう。

言葉の説明や、自分の読みが広がったり深まったりしたこと、思ったことを書きましょう。

一語一会カード 組 番 名前

読みを広げ深めた言葉（本時の「一語」）
（教科書の叙述・他の児童の言葉）

- ・選んだ言葉についての自分なりの説明
- ・読みが広がったことや深まったこと
- ・思いや考え

第5時（3場面）

学習課題

ごんは、なぜそんなにもつぐないをするのか

宝箱の語句：「反省」「後悔」

読み取る上で大切な語句：「つぐない」「ひとりぼっち」

E児

一語一会

「おれと同じ一人ぼっちの兵十か」

兵十もかわいそうだけで、ごんがどれだけの間一人ぼっちだったかが、自分ではさっぱりわかっていません。ごんは兵十が心配なんだと思います。もうごんはいたがらほだせないんだと思います。

「ごん」のイラスト

「おれと同じ一人ぼっちの兵十か」から、「兵十」につぐないをしようとした「ごん」の気持ちを具体的に想像している。

いたずら好きだった「ごん」が変わり始めたことに気付いている。

第7時（6場面）

学習課題

ごんの気持ちは兵十に伝わったか

宝箱の語句：「にくい」

読み取る上で大切な語句：「ぱたり」「取り落としました」

F児

一語一会

目につきました。

うちの中を見たときにくりかたためて置いてあって毎日毎日くりやもたけを持っていったのがごんだったと気付いてごんをうってしまったことを後悔していたから火縄銃の口をぱたりと落としたのだと思います。ごんもうたれたけとごんがとつぐないをつづけてよかたと思ってる。（一部抜粋）

「ごん」のイラスト

「火なわじゅうをぱたりと取り落としました」から、「兵十」が「ごん」のこれまでしてくれていたことに気付き、「ごん」を撃って後悔していることを想像している。

「兵十」へ気持ちが伝わった「ごん」の気持ちを具体的に想像している。

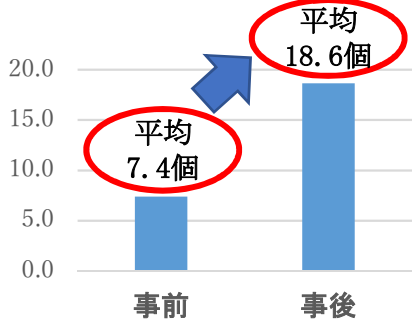
「ごん」や「兵十」の気持ちが想像できる言葉に着目し、その日の学習を振り返ったことによって、交流を通して自分なりに読み取ったことに気付き、考えを深めることができた。

研究のまとめ

手立て1【語彙指導の改善】

事前事後アンケートより

あなたが知っている「気持ちを表す言葉」を書き出してください。



学習感想より

- わからない言葉があったら自分から国語辞典で調べることができるようになった。
- ごんの気持ちを表すときに言葉のたから箱の言葉をいっばいつかえるようになった。たから箱の言葉は、気持ちを表すときにとても表現しやすいので、使うと便利だと思った。

G児の変容

【初発の感想】
ごんはきっともう少し兵十にお礼がしたかったし、よろこんでもらいたかった。

【第5時の「一語一会」】
『おれと同じひとりぼっちの兵十か』
ごんは兵十をなぐさめようたくりなどを置いていき、いたずらぎつねがやさしいぎつねに変わっていった。
兵十が心配だったから、後かいや反省をしたから、ごんはやさしくなって、つぐなえたと知った。(一部抜粋)

- 児童が知っている気持ちを表す語句の数が大きく増えた。
- 言葉への意識が高まったり、自分の表現に使おうとしたりする姿が見られた。
- 叙述に出てきた語句について文脈上の意味を捉え、自分の考えを表現する場面で使うことができるようになってきた。

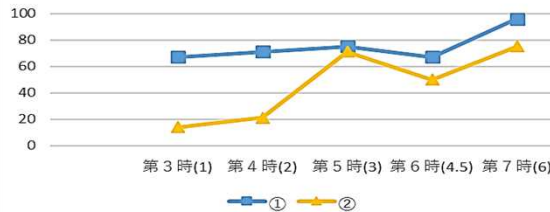
手立て2【言葉に着目して振り返る「一語一会」の設定】

「一語一会」より

検証の観点

- ①言葉に着目し、自分なりの説明を記述している。
- ②思ったことや考えたことを記述している。

①②の観点について「一語一会」を記述している児童の割合



児童の割合

- ① 第3時67% → 第7時96%
29%増加
- ② 第3時14% → 第7時75%
61%増加

- 気持ちの変化を想像できる言葉に着目し、その語句について自分なりの説明を記述することができる児童が増えた。
- 本時の「一語」を自分で選び、それを基にして振り返ったことで、多くの児童が自分の考えを深めることができた。

手立て1・2を通して

言語活動より

検証の観点と児童の割合

- ①言葉に着目し、自分なりの説明を記述している児童 → **96%**
- ②選んだ言葉を中心に思ったことや考えたことを自分の言葉で記述している児童 → **100%**

H児の言語活動「ごんぎつね一語一会」

青いけむりがまだつつ口から細く出ていました。

いつもひそかにがんばっていたごんを兵十は、火縄じゅうでうってしまった。うったあとに兵十はくりや松だけをもってきてくれたのはごんだったんだと思ってもとりかえしが見つからない。まだうってから時間がたっていないけど、たつたようなかんじがする。やっぱりごんがしたつぐないは、ぜったいにむだじゃなかったのだと思う。ごんは空にいつてうれしそうにみていたのかもしれない。

学習感想より

・「一語一会」を書いていくうちに、「自分の言葉」で書けるようになってきた。

・たくさんの言葉が見つけられて、お話がもっと深く温かく切なく感じられるようになった。

- 手立て1と2を取り入れた指導を積み重ねたことで、児童は語句を蓄積しながら登場人物の気持ちをより具体的に想像し、自分なりの言葉で考えを表現できるようになった。

成果と課題

【成果】

語彙指導の改善を通して、児童は言葉への意識が高まり、授業で取り上げた語句を自分の表現でも使うようになった。「一語一会」の設定を通して、交流での気付きを生かし自分の考えを深めることができた。2つの手立てを通して、多様な言葉に着目しながら考えを深め、自分の言葉で表現する児童の姿が見られた。

【課題】

語彙の習得には個人差が大きいことがわかった。児童の語彙の習得状況を見極めながら、個に応じた指導を工夫することが必要である。

国語科で自分の考えを豊かに表現できる児童を育成するために、「読むこと」の説明的な文章や他の領域においても語彙指導や振り返りの充実について指導を工夫し、汎用性を高めていくことが必要である。